

厚生労働行政推進調査事業費補助金（厚生労働科学特別研究事業）

分担研究報告書

Post-corona/with-corona 時代における持続可能な腎臓病診療・療養の堅牢な体制構築

「腎臓病診療における新型コロナウイルス感染症対応ガイド」作成

研究分担者：南学正臣 東京大学医学部附属病院 教授

研究要旨 腎臓病は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の重症化リスクである。国内には約 1330 万人の慢性腎臓病（CKD）患者と 33 万人を超える透析・移植後患者がおり、これらの患者に対する有効な感染予防や重症化抑制策を早急に示す必要があった。また、post-corona/with-corona 時代にも、良質な腎臓病診療を継続することが重要である。COVID-19 流行初期には不確実な情報が錯綜したこともあり、腎臓病診療の場で有効に活用できるような診療ガイドの作成が急務と考えられた。国内外の最新情報を収集・解析し、科学的エビデンスに基づく診療ガイドを作成し、内容をホームページに公開するとともに、日本腎臓学会認定教育施設に配布した。今後も情報をアップデートしていく予定である。

A. 研究目的

腎臓病患者における COVID-19 に対する有効な感染予防、重症化抑制策を示す。

また、post-corona/with-corona 時代においても良質な腎臓病診療を継続するために必要な情報を提供する。

B. 研究方法

国内外の論文および成書を精読し、腎臓病患者に対する有効な感染予防・重症化抑制策および COVID-19 に伴う急性腎障害（AKI）についての知見をまとめた。

C. 研究結果

腎臓病患者においても、咳エチケットや手洗いなど、一般的な感染予防策が基本となる。血液透析は集団で治療が行われることから、感染が拡大しやすく、患者および医療従事者が日頃から感染対策を徹底し、発熱などの症状を呈する患者に対しては時間的・空間的隔離を行う。腎臓領域で重要なレニン・アンジオテンシン系阻害薬については、当初 COVID-19 を悪化させる可能性が指摘されたが、現在ではその仮説を否定する研究が多く発表されており、従来の適応に沿った使用を継続することが重要である。COVID-19 に伴う AKI の原因は現時点では明らかではなく、適切な管理方法を含めて今後も研究が必要である。

D. 考察

腎臓病診療は保存期 CKD や透析患者など多様な患者群を対象としており、それぞれに適した感染予防策・重症化抑制策を示すことは、良質な腎臓病診療を提供する上で非常に重要と考えられた。

E. 結論

腎臓病患者における COVID-19 についての最新の知見をまとめ、post-corona/with-corona 時代において良質な腎臓病診療を継続するために必要な情報を医療現場に届けることができた。今後も適宜情報をアップデートしていく予定である。

F. 健康危険情報

（総括研究報告書にまとめて記入）

G. 研究発表

日本腎臓学会「Post-corona/with-corona 時代における持続可能な腎臓病診療・療養の堅牢な体制構築」研究班。「腎臓病診療における新型コロナウイルス感染症対応ガイド」（2020 年 10 月 1 日版）冊子を全国の日本腎臓学会認定教育施設に配布し、ホームページ上にも公開した。

[\(https://www.covid-jsn.jp/\)](https://www.covid-jsn.jp/)

H. 知的財産権の出願・登録状況 該当なし